

平成28年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日	千葉 茂	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111				
目的	ソフトウェア開発からシステム運用まで、ITの分野で活躍するために必要な知識を身につけ、ビジネスで即戦力となる人材を育成。企業が求めるITスキル・ヒューマンスキル・ビジネススキルの3本を柱とし、3つのスキルをバランスよく兼ね備えた「自ら行動できる社会人」を育てる。							
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報処理科		平成7年文部科学大臣告示第7号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験		
2年	昼間	1725	1110	0	1590	0		
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
360人		404人	9人	6人	15人	人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定</p>			
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月17日～3月31日			卒業・進級条件	<p>進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p> <p>卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p>			
生徒指導	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類 インターンシップ、技術展示会見学、卒業作品展示会、ボランティア活動、海外研修旅行、体育祭、学園祭</p> <p>■サークル活動: 有</p>			
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 CLINKS、ABCシステム、都築ソリューションズ、長野県警、富士通エフアイピー、日本情報産業、第一情報システム、旭情報サービス、TISシステムサービス、山一情報システム、アルファシステムズ、富士通、日本総研情報サービス、防衛省自衛隊、クエスト、アイエスネット、ジャステック、富士ソフト、富士通システムズ・イースト、日本アイ・ビー・エムテクニカルリューション、大興電子通信 など</p> <p>■就職率※1 : 99.3 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※2 : 88.7 %</p> <p>■その他 東京工科大3次編入9名、日本工学院ITスペシャリスト科3年次編入、他分野専門進学2名、海外留学、病気治療3名 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)</p>			主な資格・検定等	<p>情報検定 マイクロソフトオフィススペシャリスト ビジネス能力検定 情報処理技術者試験</p>			
中途退学の現状	<p>■中途退学者 17 名 平成27年4月1日時点において 在学者 383 名 (平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において 在学者 366 名 (平成28年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由(就業先決定含む)、病気治療、帰国・帰郷、成績不良</p> <p>■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。</p>			<p>■中退率 4.4 %</p>				
ホームページ		http://www.neec.ac.jp/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	①
伊達 秀雄	シダックス株式会社 情報システム開発部部長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
坪井 勇次	日本工学院専門学校 カレッジ長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
大矢 政男	日本工学院専門学校 科長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数は2回の予定、開催時期は9月及び3月の予定

(開催日時)

第5回 平成28年3月28日 13:00～15:00

第6回 平成28年9月14日 13:00～15:00

第7回 平成29年3月予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会から、議事録は新入社員に書かせる企業も多く、文章を要約してまとめるスキルが直ぐに必要になるため、新聞記事を要約させてる要望があった。現在キャリアデザイン科目で新聞記事要約の取り入れて授業内容を改善し反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

トレランスクアクト(株)とは、マイクロソフト製品の操作方法を学ばせる一方で、MOS検定試験に向けた資格試験の実施時期や夏期宿題の意見交換を行い、検定試験合格に対する評価方法を定める。MOS検定試験の合格結果を踏まえ、授業内容・方法等について検証し、学生指導上の問題点、改善案を話し合う。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
プレゼンテーション	情報伝達能力の向上を目的に効果的な情報発信方法や発表手法を学ぶ。またパワーポイントの使い方も学び、プレゼンテーション資料の効果的な作成を行う。	トレランスクアクト株式会社
卒業制作1、2	ここまで学習したことを活かしてグループごとにテーマを決め、作品の製作や自由研究を行う。	ソーシャルクラーズ株式会社
アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムについてLegoMindStormを使いながら学び、さらにはプログラミング言語を使用して実際にプログラムを作成する。	株式会社アフレル

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年3月30日(水)13:30～17:00 八王子キャンパスにて蒲田校、八王子校両校の専任教員、講師を対象に開催。

株式会社アフレル 渡辺登氏講演。LEGO MindStormsを用いて発想教育を効果的に取り入れる教育手法について研修を行う。

Eclipseにてサンプルソースの一部をJavaで追記してLEGO MindStormsの動作を実装し確認、またグループ毎にライントレースを実装し検証する研修を実施した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月30日(水)10:00～12:00 八王子キャンパスにて蒲田校、八王子校両校の専任教員がシステム開発系とネットワーク系の分科会に分かれて、今後の第4次産業革命やIoT化に向けたカリキュラムの見直しや教育指導方法等を向上させるための検討を実施した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成29年3月(予定) 蒲田・八王子合同 テーマ「今後のクラウド環境の利活用と具体的なAzureを用いた導入事例(企業、学校関係)およびAzureハンズオン」。

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年3月(予定) 蒲田・八王子合同 テーマ「第4次産業革命やIoT化に向けたカリキュラムの見直しや教育指導方法等を向上させるための検討会」

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等 委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興 協会)教育事業部教育推進グループセクションチー フ	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモー ターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセンター長 進路指導副部長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/27_kobetsuhyyoka_kmt.pdf (自己評価表)

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28_kankeisyahyyoka_kmt.pdf (学校関係者評価結果)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28_opendata_kmt.pdf

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	45	3	○		○	○			
○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかりと学びます。	1・後	45	3	○		○	○			
○			コミュニケーション	グループ活動を想定した、人と人とのコミュニケーションの取り方を学びます。	1・前	15	1	○		○	○			
○			ビジネススキル1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・後	30	2	○		○	○			
○			プレゼンテーション	パソコンを使い、多くの人の前で発表する技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○	○	○	
	○		スポーツ実習1	スキー、スノーボードの合宿などを体験します。	1・後	30	1			○	○	○		
○			パソコンセットアップ概論	在学中に使用するノートパソコンのOS、アプリケーションソフトのインストール、各種環境設定を行います。	1・前	15	1	○		○	○			
○			パソコン組立て講座	パソコンの分解、組立て、OSのセットアップについて学びます。また、パソコンのトラブルに対応できるノウハウを養います。	1・後	15	1	○		○	○			
○			コンピュータ・情報システム	コンピュータが動作するしくみ、企業でのコンピュータの利用形態や信頼性を考慮したシステム構成について学びます。また、情報処理の基礎理論を通して論理的な考え方を学びます。	1・前	60	4	○		○	○			
○			ネットワークとデータベース	ネットワークやデータベースの構成やサービス、基本的なメカニズムなどを学びます。	1・前	60	4	○		○	○			
○			システム戦略とマネジメント	情報システム戦略をもとに業務プロセスのシステム化に向けた用件定義、業務プロセスの改善とプロジェクトの目的や考え方について学びます。	1・前	60	4	○		○	○			

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
○			システム設計	システムの開発手順に沿って、設計に必要な知識と設計の手法を学びます。	1・後	30	2	○		○	○			
○			情報系資格対策講座 1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・前	15	1	○		○	○			
○					1・後	90	6	○		○	○			
	○		基本情報対策講座 1	基本情報処理技術者試験の午前免除試験に向けた対策を行います。	1・後	45	3	○		○	○			
	○		資格対策講座 1	各種検定資格の対策を行います。	1・前	30	2	○		○	○			
	○		特別講座 1	様々な講師陣による特別講座を行います。	1・後	15	1	○		○	○			
○			Office実習	パソコンの基本操作や、表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。また、検定試験の合格も目指します。	1・前	90	3			○	○			○
○			Webデザイン	Webページを作成するための基礎的なHTMLについて学びます。	1・後	30	1			○	○	○		
○			データベース基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理機能などデータベースの基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○	○		
○			アルゴリズムとプログラミング	プログラムを作成する際に必要となるアルゴリズムについて学び、プログラミング言語を使用して、実際にプログラムを作成します。	1・前	90	3			○	○		○	○
○			プログラミング実習	「アルゴリズムとプログラミング」をベースに、より実践的なプログラミング技術を学びます。	1・後	90	3			○	○	○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
		<input type="radio"/>	インターンシップ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	30	1			○		○	○	
		<input type="radio"/>	インターンシップ2		1・後	150	5			○		○	○	
		<input type="radio"/>	校外研修1	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1・前	30	1			○		○	○	
		<input type="radio"/>	校外研修2		1・後	30	1			○		○	○	
<input type="radio"/>			キャリアデザイン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます。	2・前	90	6	○			○		○	
<input type="radio"/>			キャリアデザイン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・後	90	6	○			○		○	
<input type="radio"/>			ビジネススキル2	仕事をする際に必要となる電話の応対、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	2・前	30	2	○			○		○	
		<input type="radio"/>	スポーツ実習2	スキー、スノーボードの合宿などを体験します。	2・後	30	1			○		○	○	
<input type="radio"/>			クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングなどの、最先端のIT技術について学びます。	2・前	30	2	○			○		○	
<input type="radio"/>			ソフトウェアデザイン	「システム設計」の授業で学習したことを基に、より具体的な実例を用いてグループ単位でシステム開発の演習を行います。	2・前	30	2	○			○		○	
<input type="radio"/>			情報系資格対策講座3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	45	3	○			○		○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
○			情報系資格対策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。			2・後	90	6	○		○	○	
	○	○	基本情報対策講座2	基本情報処理技術者試験の午前免除試験に向けた対策を行います。			2・前	45	3	○		○	○	
	○	○	基本情報対策講座3				2・後	45	3	○		○	○	
	○	○	資格対策講座2	各種検定資格の対策を行います。			2・前	30	2	○		○	○	
	○	○	特別講座2	様々な講師陣による特別講座を行います。			2・後	15	1	○		○	○	
○			Linux実習	OSのインストールから環境設定、UNIXコマンドなど基本操作を学びます。			2・前	60	2		○	○	○	
○	○	○	オブジェクト指向プログラミング1	プログラミング技法をもとに、アプリケーションの作成等を学びます。			2・前	60	2		○	○	○	
○	○	○	オブジェクト指向プログラミング2				2・後	60	2		○	○	○	
○	○	○	モバイルプログラミング1	プログラミング技法をもとに、アプリケーションの作成等を学びます。			2・前	60	2		○	○	○	
○	○	○	モバイルプログラミング2				2・後	60	2		○	○	○	
○	○	○	サーバ構築実習1	Linux系の様々なサーバについて、その構築方法と運用管理方法について演習を通して学びます。			2・前	60	2		○	○	○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				内	外	専任	兼任	
	○		サーバ構築実習2	Linux系の様々なサーバについて、その構築方法と運用管理方法について演習を通して学びます。			2・後	60	2	○	○	○		
○			データベース応用	リレーショナル型データベースの構造や管理機能、活用する技術を習得します。			2・前	60	2	○	○	○		
○			卒業制作1	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の製作や自由研究を行います。			2・前	30	1	○	○	○	○	
○			卒業制作2				2・後	180	6	○	○	○	○	
	○	○	インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。			2・後	150	5	○	○	○		
	○		校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。			2・前	30	1	○	○	○		
	○		校外研修4				2・前	30	1	○	○	○		
合計				51 科目			2700 単位時間(127 単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1725時間(89単位)取得すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。